神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総　　括

ＡＣクラブ発足後15年が経過した。平成12年度の新入会員は12名（男６名，女６名）である。

検診項目別にみると男性では消化器と肺の検診者が73.9%，肺のみ22.6%。女性では消化器と子宮，乳の検診者が62.9%,消化器,肺,子宮,乳の検診者が17.6%である。各検診共受診者減が目立つ。

年齢階級別にみると男性は60歳代後半が最も多く，70歳代前半，60歳代前半がこれに続く。女性は60歳代後半，60歳代前半が多く，50歳代後半がこれに続く。新入会員がすくないため会員の高齢化が目立つ。

付加検診の利用者は249名で,ここ数年増加の傾向がみられたが今年度は減少に転じた。要再・精検者は57名，22.9%であった。

オプション項目であるPSAによる前立腺スクリーニング検査の受診は32名。精検の対象となるPSA値8.0ng/mℓを越えるものはみられなかった。同じくオプション項目骨粗鬆予防検査受診者は21名。

本年度のＡＣクラブの検診での発見がんは肺がん２名（昭和55年および平成７年入会の男性）である。

消化器がん検診

ＡＣクラブの受診者524名のうち,消化器検診として上部Ｘ線検査を受診したのは250名で,全体の半数に満たない。Ｘ線検査から要内視鏡検査となった者は13名で，うち11名が受診した。その結果，胃がんはなく，胃ポリープ２名，胃潰瘍２名，十二指腸潰瘍２名が診断された。検査者及び有疾病者はいずれも低率であり，会員が固定して新規受診者が少ないことによるものである。

腹部エコー検査の受診者は男192名，女137名の合計329名である。対象臓器として胆のう，肝臓，大動脈，膵臓及び左右の腎臓と脾臓であるが，エコーによる描出率はいずれも100%に近く良好であった。例年の通り数多くの良性疾患が認められたが，腫瘤は腎の２名のみでこれは精査中である。

便潜血反応検査による大腸がん検診は男206名,女148名の合計354名が受診し，便潜血の陽性者は23名の6.5%であった。大腸内視鏡と注腸Ｘ線検査による大腸検査の受診者は15名65.2%で，その結果は大腸ポリープ８名と結腸憩室症が２名であった。

肺がん検診

なくす会の年齢構成は44歳以下は僅か６%であり，がん検診としては理想の形になっている。そのうち肺がん検診は84%が受診していて肺がん検診への関心の高さが示されていて，とくに肺がん単独の検診は15%を占めている（**表１，表２**）。肺がんまたは肺疾患との関係を云々される喫煙については30%が喫煙中で，現在喫っていない人は約70%であるが，以前の喫煙者と現在の喫煙者を合計するとそれぞれが30%強づつということになる（**表３**）。単純胸部Ｘ-ＰとＣＴでは併用群が多く60%がＣＴ検診をうけている。併用群からＣＴの再検査が多いのは病巣発見率の高さによるものである。肺がんは２例でそのうち１例はやはりＣＴ発見にふさわしい極早期で手術により確診を得たがＣＴ画像上の診断はAAH(Atypical adenomatous hyperplasia)なる非定型腺腫様過形成で前癌状態とも考えられる病巣であった。他の１例は陳旧性肺結核に随伴した炎症として経過をみていたが開胸生検により小細胞未分化癌と判明したものであった。

乳がん検診

初回検診者は５名，再検者は133名である。精検及び半年以内の再検者は３名，穿刺細胞診は１名。今年度はがんの発見はなかった。

ＡＣクラブ発足時の昭和61年度に初回検診を受けた94名のうち25名が平成12年度に受診し，そのうち12名が15年間連続受診している。昭和62年度初回受診の81名では18名が平成12年度に受診し，うち８名が14年間連続受診している。平成１年度に初回受診の20名では６名が平成12年度に受診，うち４名が連続受診。平成３年度に初回受診の15名では７名が平成12年度に受診し，うち２名が連続受診している。

ＡＣクラブ発足後15年間の乳がん検診受診者実数(会員数）は361名で，延観察数は2,306名，発見乳がんは10名，がん発見率は0.43%（乳がん数／延観察数）である。

子宮がん検診

平成12年度の子宮頸がん検診受診者は116名であった。このうち96名が同時に子宮体がん検診を受診した。

頸部細胞診の結果，２名が炎症所見と共に細胞診軽度異常を認め要再検となった。消炎後の再検結果は両者共陰性であった。

検診時の内診で子宮筋腫を２名認めた。その後のエコー，MRIによる精査の結果経過観察となった。

体部細胞診からも細胞診軽度異常が１名発見されたが，再検結果は陰性となっている。

関係の集計表は129～131頁に掲載